

埼玉県学力・学習状況調査に係る効果的な取組事例（小学校・算数）

幸手市立吉田小学校

1 本校の概要

(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果

学年	伸びた層			本事例で取り上げた領域				左記以外に取り上げた主な取組
	上位層	中位層	下位層	数と計算	量と測定	図形	数量関係	
6			○	○		○		「算数指導過程の手引き」の活用

※ 「伸びた層」は、一番伸びた層に『○』。各層において同じ伸びの場合は、複数の層に『○』。

(2) 伸びた結果の要因、背景

- ① 学校課題研修（基礎基本の確実な定着と活用力を育てる学習指導法の研究）の充実
 - ア 学校課題研修への取組
 - イ 学校課題研修を活かした授業実践
 - ・ 問題解決的な学習の充実
 - ・ 個人差に応じたきめ細やかな指導の充実
- ② 日々の学習活動を支える取組
 - ア 補充的指導・繰り返し学習の実施
 - イ 「さってアフタースクール」による補充学習
 - ウ 生きた家庭学習とするための家庭との連携

2 具体的な取組

(1) 教育委員会との連携による取組

- ① 「幸手スタンダード」を活かした学習指導の実施
- ② 「幸手市家庭学習宣言」（家庭学習の手引き）を基本とした家庭学習
- ③ 「さってアフタースクール」の効果的な実施

(2) 本校独自の取組

- ① 学校課題研修（基礎基本の確実な定着と活用力を育てる学習指導法の研究）の充実
 - ア 学校課題研修への取組

<取組1：ブロックでの共同教材研究と共同指導案作成による授業研究>

「実践例 6年生授業研究会（6月13日・月）へむけての取組」

- 5月19日（木）・・・Aグループによる共同教材研究（1回目）
- 5月23日（月）・・・Aグループによる共同教材研究（2回目）
- 5月26日（木）・・・Aグループによる共同指導案作成（3回目）
- 6月 2日（木）・・・Aグループによる共同指導案検討（4回目）
- 6月 6日（月）・・・全体会での指導案検討

イ 学校課題研修を活かした授業実践

- ・ 問題解決的な学習の充実

<取組2：「吉田小・算数指導過程の手引き」に基づいた学習指導>

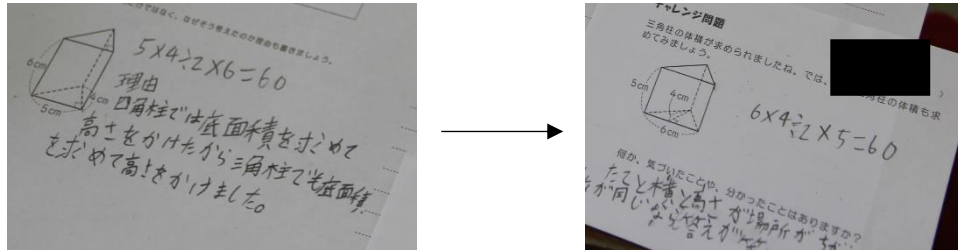
過程	主な学習活動 ☆吉田小・板書方式	問題解決行動	指導上の留意点
問題の理解	・ 問題を理解する。 ☆◎カード掲示 ☆分かれていること…青線（直線） ☆聞いていること…赤線（直線） ただし、教師は青には黄色チョークを使う。（色弱児童への配慮のため）	・ 問題文を読んだり書いたり、 絵や図などに表したりして、 問題場面を理解する。 ・ 分かっていること、聞いていることに線を引く。 分…青線 聞…赤線	・ 問題解決への意欲を持たせる。 ・ 簡単に解けそうにないことを認識させる。 ・ 発達段階に合わせた、問題場面の視覚化を工夫する。 （絵、図、アレイ図、テープ図、線分図、数直線、表など） ・ 算数的活動を柔軟に組みこむ。
	・ 本時の課題を理解する。 ☆◎カード掲示		

<取組3：話し合い活動による数学的な考え方の育成>

- ねらいに合わせて、ペア・小グループ・全体での話し合い活動を効果的に活かす。
- ◇ペア ・短時間で行え取り入れやすく具体物や図が示しやすい。
 - ◇小グループ ・それぞれの考えの共通点や違いをつかむことができる。
 - ◇全体(練り上げ) ・それぞれの考えを結び付け本時のまとめへと向かう。

<取組4：学習内容の振り返り（適用問題・適応問題）の工夫>

「実践例 6年生 底面積×高さの一般化につなげる追加問題」



「実践例 3年生 学習内容を生かした発展問題」

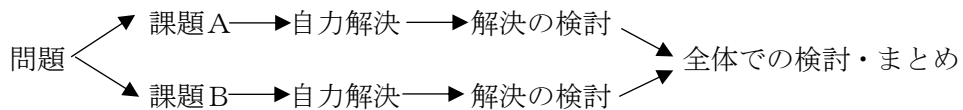
課題 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ や $\frac{3}{5} - \frac{1}{5}$ の分数のたし算やひき算の計算の仕方を考えよう。

↓
適用問題 $\frac{6}{10} + \frac{3}{10} - \frac{2}{10}$ (加減混合の3口の問題)

- ・個人差に応じたきめ細やかな指導の充実

<取組5：学習形態（TT指導・少人数指導・ジグソー法）の工夫>

「実践例 3年生 課題選択によるTT指導」



「実践例 4年生 少人数指導（習熟度別による課題）」

第1次 _____ TT指導

第2・3次 (7/16時～16/16時) 少人数指導

7/16時 白馬コース 課題「平行に目をつけて四角形を仲間分けしよう」

7/16時 ペガサスコース 課題「いろいろな四角形を仲間分けしよう」

<取組6：効果的（必要な児童に必要な時に必要な事を）な支援の工夫>

- ・解決のしかたをタイプ別にとらえる個に応じる指導・支援
- ・意図的、計画的な机間指導・支援
- ・小集団指導（自力解決が進められる時点まで指導）

3 成果と課題

(1) 児童の変容した（伸びた）姿について

- ・教員の見取りから
 - ◇既習内容や学習した考え方やアイデアを活かした自力解決が増えている。
 - ◇根拠を求めたり論理的に説明したり考えを比較したりし、話し合い活動が充実してきている。
- ・アンケート結果から
 - ◇苦手意識が薄れ意欲の向上が図られ、課題解決や話し合い活動への自信となっている。
 - ◇83.3%の児童の回答が、「算数が好き」にスライドし、意欲の向上が見られた。



(2) 分析結果を受け、これからの実践に向けての課題

- ◇本時のねらいや課題を明確化し、児童の発言が広がる発問を工夫する。
- ◇児童同士での深い学びのある話し合い活動に重点を置いた授業展開を工夫する。